

令和元年度

# 議会行政視察報告

期 日：令和2年2月13日(木)～2月14日(金)

調 査 地：【1日目】イオンアグリ創造㈱茨城牛久農場  
【2日目】栃木県茂木町まちなか文化交流館  
ふみの森

視察内容：（1）最新農場の具体的な取り組み  
（2）まちなか文化交流館ふみの森の  
施設概要及び運営について

国見町議会

東海林 一 樹 議長	・ ・ ・ ・ ・	2
松 浦 常 雄 副議長	・ ・ ・ ・ ・	3
八 島 博 正 議員	・ ・ ・ ・ ・	5
渡 辺 勝 弘 議員	・ ・ ・ ・ ・	6
佐 藤 定 男 議員	・ ・ ・ ・ ・	7
村 上 一 議員	・ ・ ・ ・ ・	8
松 浦 和 子 議員	・ ・ ・ ・ ・	9
佐 藤 孝 議員	・ ・ ・ ・ ・	10
小 林 聖 治 議員	・ ・ ・ ・ ・	12

# 議会行政視察報告書

令和2年2月20日

国見町議会議長 東海林一樹

## 【研修内容】

### 1. 茨城県牛久農場

13日午前10時30分牛久農場到着、アグリ創造（株）の東日本 担当部長の濱本氏と農場長の倉持氏に迎えられ、早速濱本部長の案内で農場を一回り、耕地面積は18ヘクタール、ビニールハウスは10棟並んでいた。牛久農場の正社員は7名とパート社員40名で運営されている。

農場を視察した後、会議室に移り濱本部長から説明を受けた。アグリ創造（株）では北は北海道から南は九州大分県まで全国に21カ所で直営農場を運営している。正社員は650人、平均年齢は30才前後で男女の割合は6：4ぐらいで、農産物の出荷先はイオン系の小売店である。

部長は個人的な意見ですが前置きして、農場の数は各県に一カ所くらいにし、海外にも生産拠点を置きたいと考えている。農業はアグリだけの問題ではなく、日本全体の農業を良くしたいと考えていた。

### 2. 栃木県ふみの森もてぎ

14日午前10時、栃木県茂木町まちなか交流館ふみの森もてぎに到着し、半田議長と水沼副町長から歓迎のあいさつをいただいた。館長の関氏から交流館ふみの森もてぎを完成するまでのビデオをみたあと配布された資料を基に説明を受け、館内の視察をした。

建物は地場産の木材がふんだんに使われており、暖かみのある雰囲気を出していた。中は図書館がメインだが、その他の歴史資料展示室、交流広場、ギャラリー、カフェがあり、ギャラリーにひな人形が飾られていて、お客さんも結構入っていた。

## 【感想】

イオンアグリ（株）は一度は行ってみたいと思ってたので担当部長から話が聞けて日本の農業の未来が明るくなったように感じた。

茂木町とは震災時応援協定を結んでおり、その縁で今回我々の行政視察を受け入れて頂いた。交流館は本当にすばらしい施設でした。

以上

# 議会行政視察報告書

令和2年2月20日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 松浦常雄

## 【研修内容・感想】

### 1. イオンアグリ創造(株)茨城牛久農場

- ① 農業が会社経営として行われて成功していることは、これからの農業のあり方を示すモデルと言える。
- ② 勤務態勢も一般の会社とほぼ同じやり方で、働きやすい。女性職員には、産休や育休もあり、若い人々にとって恵まれた職場になっていると思う。
- ③ 原野を切り拓いて立派な作物ができるまでに土壌を改良したことは素晴らしいと思う。
- ④ 作付ける品種を選び、種まきの時期を少しずつ変えて一定期間大量に生産することは、市場の期待にも応えるよい方法である。
- ⑤ イオンアグリ農場は、化成肥料を使わず、オーガニック(有機栽培)を行っていることは、その作物が人体にとって健康的でとても好感が持てる。
- ⑥ 若い職員は、農業を通して社会貢献しているという意識を持っていることは、生きがいになる。
- ⑦ 職員を単なる働き手(労働者)としてでなく、社員として責任を持たせて任務に当たらせていることは、生産性や、品質の向上に大いに役立っていると思う。

イオンアグリ農場の優れた経営について理解できた。説明者の自信と熱意に感動した。

### 2. ふみの森もてぎ

- ① 栃木県茂木町は、県の南東部にあり、益子町や、那須烏山町や茨城県笠間市などに隣接しており、都心から100キロメートル圏内にあり。里山や、棚田に代表される豊かな自然、城下町の面影を残す市街地、「道の駅もてぎ」、スポーツ施設があり、年間310万が訪れる。
- ② ふみの森もてぎは、中心市街地の活性化を図るために、図書館と交流広場、イベントもできる幼児の図書館、保育所の幼児ギャラリー(展示室)、町民ギャラリー、会議室、中高校生の学習室等を持つ複合施設である。歴史のある造り酒屋の建物を有効に生かしている
- ③ 施設の中が大変立派である。図書館は、町の木材をふんだんに使って屋根を支え、柱が少ない構造であり、天井が高い。蔵書の数も多く、利用しやすくよく分類されている。
- ④ 1階には、カフェがあり、来館者のくつろぎの場として利用されている。  
茂木町の図書館を中心とした文化施設は、利用者が多く、町民の心を豊かにする場である。

国見町とは、道の駅整備以前から農産物や特産物の交流をしており、平成29年1月に災害時応援協定を締結しているので、今後もっと交流を深めていきたいと思う

以 上

## 議会行政視察報告書

令和2年2月18日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 八島博正

### 【研修内容・感想】

#### (1) イオンアグリ創造(株)茨城県牛久農場

- ・17ヘクタールの畑にて大豆(枝豆)、人参、白菜、小松菜の4品目を栽培、内1ヘクタールのハウス
- ・職員6名と部長パート40名
- ・土地は全て借地
- ・生産物はイオン・ダイエー等4社に出荷販売
- ・コンテナは専用コンテナ使用

企業内企業でイオングループ300社の中の一つで全国20社あるが赤字の農場が多い。人が集まるのは農場に集まるのではなく、イオングループに集まり企業内の人事異動も多いという。将来の農業については参考になる処はゼロであった。

#### (2) 栃木県茂木町まちなか文化交流館ふみの森

- ・造り酒屋の跡地を町が購入し、図書館、歴史資料館、交流広場、ギャラリーカフェ等の文化施設
- ・公民館長の説明後館内を視察研修

茂木町の研修はすばらしかった。造り酒屋が廃業しその跡地に町有林の木材を使って文化施設を町中に造ったもので、中心になる図書館は全国の町村でもトップクラスと云う素晴らしいものだった。

以上

# 議会行政視察報告書

令和2年2月19日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 渡辺勝弘

## 【研修内容・感想】

### 1. 茨城県イオンアグリ創造(株)茨城牛久農場

2009年に農業に従事する株式会社として創業した。この会社は現在、北海道から九州まで全国21か所の直営農場を運営している。

社員自ら畑に出て、約30品目を作っているそうだ。

まず、平均年齢30才前後の社員のみなさんが「3K職業」と言われる農業に自信と誇りを持って従事している事に驚かされた。これほど若者たちが農業に対して興味があること、これからの農業を変えるという情熱を感じた。

農業を、「家業」としてやっていたために労働時間は長くなる。それは当たり前のことだと教えられ、束縛され少ない労働賃金で働くことは当たり前だと考え、自分たちの跡継ぎを強制する事ができなかつたことが、農業の衰退が進んだ要因の一つである。そこで、まず「農業神話」を崩さなければ、日本の農業の未来はないと考える。何事も固定観念とらわれず、若者の感性を取り入れて、安全安心への取り組み・新鮮さのこだわり・地域の関わり合い・自然環境へ配慮などこの農場が大切にしていることこそ、未来の農業のあるべき姿なのかもしれません。

### 2. 茂木町まちなか文化交流館 ふみの森もてぎ

300年続いた酒造蔵元の跡地に建てられた「図書情報館」・「歴史資料展示室」・「展示 町民ギャラリー」・「体験研修室」・「ブックカフェ まちかどサロン」等が複合する施設であり、仕込み蔵や土蔵を残しながら、町有林をふんだんに利用した空間が作られている。

茂木町の歴史を知ることができ、歴史年表にて、発掘された土器などにより今日までの歴史を子供から高齢者まで事細かく、解かりやすく展示してあった

当町にも、素晴らしい歴史があり資料もたくさんある。展示物を探して見る事も大切であるが、歴史年表があつたら面白いので、ぜひ提案したい。

また、図書館においても素晴らしいものであり、素晴らしい町有林を見事に融合させており、太陽の光と木の温もりを感じさせる施設である。

時代によっていろんな波を乗り越えながら現状に甘んじることなく、成長発展を試みている茂木町の心意気が感じた。

2日間、実りある研修であつたと思われる。

以上

# 議会行政視察報告書

令和2年2月18日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 佐藤定男

## 【内容】

### 1. イオンアグリ創造（株）茨城牛久農場

- 「イオンアグリ創造」は2009年に農業に従事する株式会社として創業、社員が実際に畑に出て、約30品目を作っている。（主に野菜）
  - ・当農場の広さは17ha、枝豆から始まり小松菜、人参、白菜を作っている。
- 当社の特徴の一つは人事制度にあるのではないかと。
  - ・採用人数に対し百倍前後の応募が続いているが、大学卒だけでなく高卒、将来、農業で自立したい人など広く門戸を開放している。
  - ・就業時間、有給休暇なども一般企業と変わらず農業の暗いイメージはない。
- 会社としての経営は厳しいものがあるが、日本の「食」を見つめ従来の農業とは違う新しい農業を目指している。

### 2. 茂木町「ふみの森もてぎ」

- 当施設は、永い歴史に幕を閉じた酒造蔵元と、隣接する病院跡地ほか周辺の協力を得て、平成28年に開場した。（総工費15億円）
  - ・建物は町有林の木材がふんだんに用いられ、木の温もりが感じられる。
  - ・ふみの森は、図書館＋歴史資料展示室＋交流広場＋ギャラリー＋カフェを備えた複合文化施設で来場者の様々な要望に応じている。
- メインの図書館は蔵書数が約6万冊（うち児童書は3割）、収納可能冊数は12万5千冊である。（図書費予算：年間9百万円）
  - ・学習室が42席、グループ学習室、館内キャレルなどが設備されている。
  - ・貸出は町内に在住・在勤に関わらず、誰にでも貸し出している。

## 【感想・意見】

- イオンアグリ農場は農業のイメージを大きく変えている。若者たちの意欲を引き出し、食を通じて社会貢献をしていくという高い志を感じた。
- ふみの森は建物も周囲の風景にマッチし落ち着いている。まちなかであって、町民の様々な活動の場として重要な役割を果たしている。

以上



# 議会行政視察報告書

令和2年2月19日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 村上 一

## 【内 容】

### 《イオンアグリ創造㈱ 茨城牛久農場》

イオンアグリ創造㈱は2009年に農業に従事する株式会社として創業。農産物の仕入れや保管などをするのではなく、社員が実際に畑に出て30品目の作物を作っている。2014年から定期採用を始め、初年度は40人採用に約4000人の応募があった。その後も採用人数に対し100倍前後の応募が続いている。その中でも農学部の学生が多いが、4割は経済学部や商学部、工学部からも入社している。現在全国21カ所で直営農場を運営しており、社員650人、平均年齢30歳前後で、男女の比率は6:4になっている。

生産された野菜等は主にイオングループに出荷している。

茨城牛久農場の面積は現在17ha（内ビニールハウス1ha）。最初は耕作放棄地を借りて農場を開設した。現在ビニールハウスには小松菜が栽培されており、6回転栽培されている。出荷調整に予冷庫が設置されており、コンテナ出荷される。露地栽培は枝豆を中心に、さやえんどうやニンジン等が栽培されている。土づくりにも力を入れており、牛糞堆肥を主体とする堆肥を作り有機栽培（オーガニック）をしている。また商品に付加価値をつけるために「グローバルGAP」という世界基準の農業生産工程管理の認証を全21農場で取得している。

### 《茂木町まちなか文化交流館・ふみの森もてぎ》

茂木町は人口1万2千人、面積は国見町の4倍で、357haが森林である。歴史的既存建築物「蔵」を補修して再活用したり、新たな建築物には先人が植林を続けてきたスギやヒノキを活用し木質化を図り、まちなかに図書・情報・歴史・文化の中心を置き、人々が賑わう街の再生を図るべく、3年前に「ふみの森もてぎ」が開設され、入場者は3万人を超えた。1900坪の敷地には広大な図書館・ギャラリー・体験研修室がある。

## 【感 想】

イオンアグリ創造㈱のような取り組みが、「日本の農業を変える」という若者の志を後押ししてくれているのではないかと感じた。

ふみの森もてぎは、光・風・木のぬくもりに溢れた、心地よく人々が集う場所である施設だと感じた。

以上

# 議会行政視察報告書

令和2年2月19日

国見町議会議長 東海林一樹 様

国見町議会議員 松浦和子

## 【内 容】

1. イオンアグリ創造株式会社生産本部東日本担当部長、牛久農場長の案内で農場内視察した。悪天候のためハウス内での小松菜の収穫作業状況や農機具などの説明を受け、その後、室内での牛久農場を中心に、全国に20あるイオンアグリ農場について今後の展望等の説明を受けた。平成21年7月牛久市からの誘致を受けて17haの耕作放棄地を借り、開拓から始まった。10農場になったころ耕作放棄地の開拓が大変となり、農地を借りた。全農場で100品目の野菜の栽培を行っている。将来は各都道府県に1つの農場が欲しいと考えている。オーガニック（有機野菜）は持続可能な野菜で、令和4年にはオーガニックを20%栽培目標としている。

また、地域との連携を大切にしており、祭礼等の行事にも積極的に参加し、地域住民とのコミュニケーションを図っているといった説明を受けた。

2. 茂木町まちなか文化交流館「ふみの森もてぎ」（図書館／ギャラリー）の施設について担当職員より説明を受けた。オープンから3年半が経過した。図書館を中心としたギャラリーなどを併設した複合施設で、造り酒屋跡地に中心市街地の活性化を図るため、茂木町産の木を使って建設した建物である。木の香りや切妻屋根の建物は極めて建築評価が高く、各種の賞を受賞した。

図書館は施設の中心で年間10万人の来場者があるが、これから勝負だと考えている。司書の4名が、様々な企画に取り組み、魅力を持ち続けられるよう努力していた。説明後、館内を視察した。図書館は蔵書数42,000冊で内、児童図書は17,000冊あり、最近の図書館の傾向なのか、雑誌が40冊、新聞も10紙以上で充実していた。

## 【感 想】

2日間に渡り、視察を実施した。イオンアグリ牛久農場では、30代の農場長が自分の夢や希望を織り交ぜながら、自信に溢れた表情で説明している姿に、日本の農業の未来が楽しみに感じた。また、地域の方々とのコミュニケーションを大切に考えていることは素晴らしいことだと思った。

茂木町の「ふみの森もてぎ」の複合施設は茂木町の歴史や文化を大切に思っている町民の誇りを感じた。図書館は、明るくて広く、表示方法等に細やかな気くばりを大切にしている魅力ある図書館だった。

大変、充実した内容の行政視察になった。

以上

# 議会行政視察報告書

令和2年2月20日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 佐藤孝

## 【調査内容】

### 1. イオンアグリ創造（株）牛久農場

- ① 平成21年7月に2.7haで開場し、現在は10haを経営している。すべて借地で、起業時は、牛久市およびJAからの補助を活用している。
- ② 現農地は雑木林を開墾、土壌改良に3年かけ、有機栽培を基本としている。
- ③ 栽培作物は、枝豆（こいひめ）7haを6～9月に時期をずらし作付、小松菜は2haをハウス6回転、路地を3回転している。
- ④ 販路はイオングループ店舗で、一部JAにも出荷。

### 2. まちなか文化交流館「ふみの森もてぎ」

- ① 図書館・歴史資料館・ギャラリーなどを集約した複合施設で、平成28年7月オープン。建物はRC一部木造の2階建てで、延床面積は約3,000㎡となっている。
- ② そもそもは旧病院や旧酒造会社の跡地を利活用し、建物の一部を再利用するなどしている。また、木造作りの資材は町有林を伐採・製材してものである。
- ③ メインの図書館は、蔵書が約6万冊、収容可能冊数は12万5千冊という。茂木独自の分類法によるMCC方式を採用している。
- ④ 職員は11名おり、うち正職員7名・嘱託4名となっている。司書は4名、学芸員も1名いる。
- ⑤ ギャラリーでは企画展、交流施設では子育て支援などを行っている。

## 【感想】

### 1. イオンアグリ創造（株）牛久農場

- ① 大学新卒を対象にした募集で3000倍の募集があったことに驚かされ、その大きな背景に人事制度にあるとのこと。つまりは単なる労務提供ではなく、経営者もしくは管理職としての責任を付与している。また、全国人事を実施しているなど、農業のイメージを変えている。
- ② 作付も多品種でなく、全国21農場で100種あるものの、1農場で数種に限定していることも大きな特徴だ。農場の土壌にあった品種に特化しているのだろう。
- ③ 印象に残ったのは販路だ。全国展開するイオングループの強さを前面に、消費者ニーズを徹底して分析しながら販売戦略を立てていることにある。  
また、働いている正社員は若者が中心で女性もおり、その働く表情が生き生きとしていることに感心した。

- ④ 牛久農場開場は行政と JA の誘致によることから、地域イベントや地域活動へはかなり積極的に参加している。これらを通じて、農場拡大や季節労働者の雇用がされてきており、地域の優良企業として認知されている。
- ⑤ また、この農場での経験を踏まえ、家業の農業を引き継いでいたり、新規農業者として起業するものも数多いと聞く。イオンアグリの基本理念は、日本における産業としての農業を再建することであり、その壮大な挑戦には敬意を表するしかない。

## 2. まちなか文化交流館「ふみの森もてぎ」

- ① 資料の利用目的や用途によるカテゴリー一群と、「世界」の事象に即したカテゴリー一群によって構成した独自の配架方式だが、詳しく説明を聞く機会がなかったのが残念だ。勝手な判断をすれば、一般の利用者が分類できる現実を重視した方法だろうと思っている。
- ② 図書館は明るく清潔感があり、天井も高く館内はかなり広い。ある意味、威圧感・圧迫感がない。歴史資料室に図書館を併設していることも好感が持てる。MCC方式の関係なのだろうか、蔵書を探すのがとても簡単にできたのは非常に驚いた。
- ③ 学習スペースは仕切りされ、静かな環境が確保されているのが良い。
- ④ 先日、何か所か図書館を視察したが、ふみの森はステージが上のように感じるが、そのことに違和感を覚えないのは、明るさや館内の設計、配架方式が要因なのだろう。

以上

## 議会行政視察報告書

令和2年2月19日（水）

国見町議会議長 東海林一樹 様

国見町議会議員 小林 聖治

### 【内 容】

- ①企業による大規模農業について、現地農場を視察しながら、当農場の概要やシステム、将来にわたる課題等の説明を受け、質疑を行った。
- ②茂木町の文化交流施設である「ふみの森もてぎ」の施設内を説明受けながら見学の後、概要及び運営などについて質疑を行った。

### 【感 想】

①私は、イオンアグリ牛久農場を視察するにあたり、まず会社形態で農業をする場合の従業員の雇用体制、従業員を通年雇用する場合のそこで生産する農産物の選択、生産した農産物の出荷先、販路について興味をもって臨みました。

農場到着後、直ちに17ヘクタール弱におよぶ農場施設内を見学しました。鉄骨ビニールハウス内では女性従業員が泥だらけになって、野菜の収穫機械のメンテナンスに集中していました。その姿を見ても、この農場は良い意味で労働の男女均等化が図られているなと感じました。

次に、ミーティングルームで工場長からの説明を受けましたが、最初に驚いたのは、従業員募集時に1000倍もの応募者があったということです。(エントリーだけなら3000倍)

さすがに、純粹に農業がやりたくて応募した人はどのくらいいるかわかりませんが、おそらくイオングループの会社のひとつに就職するようなつもりでの応募が大半であったと私は推測しましたが、それにしてもその応募者数には驚きました。

説明によると、多数の応募者があった背景には、人事体制に魅力があったとのこと。この会社の場合、就職しても一生ワーカー（労働者）で終わらない。担当ごとに生産計画、収益を考え、良い成績を出せば昇給制度もあり、なるほどと思いました。

また、野菜の通年栽培に関しては、生産品目が4品目というのが意外でしたが、それぞれ露地、ハウス栽培をミックスし端境期がないように工夫しているとのこと。出荷に際しても、一玉だけでなくカットして出荷するなど、様々な工夫が感じられました。

これは、この農場の最大の強みだと思いますが、出荷先は、イオンのスーパーである「マックスバリュ」をはじめ、イオングループの「ダイエー」、「まいばすけっと」、茨城県の地元スーパーの「カスミ」、のような安定した優良な出荷先、販路があるからこそ、ある意味安心して生産ができるということではないかと感じました。

地域に対する貢献について、11年前2.9ヘクタールから始まったこの農場は、地元地区の雑草の刈り払いや泥上げなど、やはり地域の皆さんの中に溶け込むために努力をしたようです。私も5年前、サラリーマンを辞め家業である農業を継ぎましたが、最初は近所や同じ地区の皆さんに「勤め人やってた奴に、百姓が何できる」と懐疑的に捉えられていたことを思い出しました。ただ、私も町内会の草刈りや、用水路の泥上げ、町内会の行事にはすべて参加しているうちに、立ち話程度ですが、いろいろな農業の技術やコツを教えてもらえるようになり、徐々に地元の皆さんに受け入れてもらったことを思い出しました。

最後に、このイオンアグリ創造(株)という会社は、近い将来訪れるであろう、農業後継者不足などによる日本農業の衰退に挑戦し、農産物の安価での安定供給という使命を担っているとありますが、実は、近未来的な集団営農のための人づくり、リーダーづくりをしているのではないかと感じました。

②この茂木町のまちなか文化交流館「ふみの森もてぎ」に足を踏み入れた瞬間、何とも言えない木の香りがしてきました。やはり、木の香りというのは癒し効果もあるのでしょうか。

初めに、DVDで、この施設の建設の様相から建設の工法の説明など沿革の説明の後、施設内を説明してもらいながら見学をいたしました。建物としては、地元の木材をふんだんに使い、接続サスペンダー構造等により無柱空間を創るなど、木造建築技術の粋を集めたつくり感動しました。続いて、質疑が行われました。

茂木町も、人口減少の波は避けられず、昭和45年から現在まで人口が半減し、特に中心市街地が衰退してきたことから、活性化を図る目的で図書館を中心に交流の場をつくることになったようです。

やはり町外の方々の利用割合が多く、その点ではわが国見町も似たような状況にあるなと感じました。

私の茂木町のイメージは、なんといっても国内モータースポーツの聖地「ツインリンクもてぎ」であり、その影響もあり年間交流人口は317万人にもものぼることでした。

以上